令和4年度　中間報告

石川県立金沢泉丘高等学校（通信制課程）

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）および今後の扱い（改善策等）
1　生徒への学習支援を積極的に行い、家庭の理解と協力を得ながら報告課題の提出状況や出席日数の改善を図り、単位の修得率を上げる。その際、ホームページ等の改善や有効活用により情報発信の充実を図る。	①生徒が報告課題を計画的に提出できるよう、「年間計画表」の積極的な活用をすすめる。 教職員は「学習進度表」を定期的に郵送することに併せて、学校配信メールやGoogle Classroomで「教務のお知らせ」を発信する。	教務課 教科会 学年会	【成果指標】 第1期締切までに報告課題を提出した生徒が継続的に学習をすすめ、定期試験を受験している。	第1期締切までに報告課題を提出した生徒のうち、定期試験を受験した生徒の割合が A　75%以上 B　70%以上 C　65%以上 D　65%未満	年度末に判定 C以下の場合は手だてを検討する。 R4前期　73.8% R3前期　76.6% R2前期　73.7%	今年度から報告課題の提出を6期に区分し、計画的な学習を促した。受験率は昨年度より2，8ポイント低下しているが、制度改正によるものか今年度の生徒に依存するものかは判断つかない。 制度改正による混乱はみられない。 今後も計画的に学習をすすめるよう働きかけていきたい。
	②教職員が報告課題の作成に困難を感じている生徒に向けて、平日レポート質問教室を設ける。また、メールやGoogle Classroomや電話を含めいろいろな形での質問に答える。	教務課 教科会 学年会	【成果指標】 生徒が、メール、FAX、電話やGoogle Classroomで、教科や科目の質問をしている。	メール、FAX、電話やGoogle Classroomで教科や科目の質問をしたのべ生徒数が A　300人以上 B　200人以上 C　100人以上 D　100人未満	年度末に判定 C以下の場合は手だてを検討する。 R4前期　107件（1491分） R3前期　191件（2271分） R2前期　156件（2081分）	質問教室、直接の教員への質問が少ないとともにGoogle　Classroomの利用も伸長していない。メール配信等で質問教室について呼びかけるとともに、Google Classroomの利用促進のための教員研修等を実施したい。
2　基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚、自他の生命を尊重する態度の育成を図るため、時間厳守や適切な言葉遣いの励行、法や決まりの意義の理解と遵守など、学校内外を含めた生活活動を見直し、改善を図らせる。	①教職員が登校指導によるあいさつ活動やショートホームルーム等の生徒と関わる場での声かけを通して、相手を尊重する態度の育成を図る。	生徒・図書課 学年会 担　任	【成果指標】 生徒が登下校時に自分からすすんで挨拶をしている。	「あなたは登下校時に挨拶をしていますか」という質問に①「自分からすすんでしている」と答える生徒の割合が A　95%以上 B　90%以上 C　85%以上 D　85%未満	年度末に判定 「生活規律を守っている」 R4前期　97.6% R3前期　71.0%	登下校時のあいさつ活動では、生徒の反応も良い。今後も継続していきたい。
	②いじめは絶対に許されない行為であることを、教職員がショートホームルームや校内掲示によって啓発したり、生活体験発表の機会を活かして周知したりするなど、生徒の「他者への思いやりの心」の育成を図る。	生徒・図書課 学年会 担任	【成果指標】 生徒が生活規律を守っており、学校生活を楽しいと感じている。	「学校生活は楽しい」という質問と「自分は生活規律を守っている」という質問の両方に肯定的回答をした生徒の割合が A　95%以上 B　90%以上 C　85以上 D　85%未満	年度末に判定 「学校生活は楽しい」 R4前期　70.5% R3前期　71.0% 「生活規律を守っている」 R4前期　97.6% R3前期　96.4%	前期は昨年度と同程度であった。 「学校生活は楽しい」と回答した生徒のほぼ全員が「生活規律を守っている」と回答しており充実した様子がうかがえる。 後期は学園祭もあり、生徒が活躍できるよう働きかけていきたい。
	③教職員が「ほけんだより」やショートホームルーム、学校配信メールで身体計測、各種検診の受診を呼びかける。	保健課・ 相談室 学年会 担　任	【成果指標】 生徒が各種検診を受診している。	生徒の各種検診の受診率が A　60%以上 B　55%以上 C　50%以上 D　50%未満	身体測定　71．0% 【判定　A】 内科検診　46．1% 歯科検診　48．8% 【判定　D】	内科検診、歯科検診ともに4年次生の受診率が25%以下となっており、全体の受診率を引き下げている。困難な課題ではあるが、次年度に向けて4年次生の受診率を引き上げるための具体策を検討する必要がある。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）および今後の扱い（改善策等）
3　生徒一人一人の生活状況を把握し、教職員間で共有することにより、チームを組んで適切に支援する体制をつくる。	①保護者が担任と個別に懇談する機会を持ちやすくし、学校と保護者が認識を共有しながら、効果的な生徒支援を行えるようにする。教職員は学校配信メールでも情報を発信する。 個別懇談のお知らせに応答がない保護者にできるだけ連絡をとる。また、保護者の都合の良い懇談会日時の設定や環境作りを行う。	総務課 学年会 担　任	【努力指標】 保護者が担任と年度内に1回以上懇談している。	年度内に担任が1回以上懇談した保護者の割合が A　70%以上 B　60%以上 C　50%以上 D　50%未満	年度末に判定 C以下の場合は手だてを検討する。 R4前期　45.8% R3前期　52.1% R2前期　31.3%	これまでは、未成年生徒の保護者に占める面談数の割合としてきたが、今年度より総活躍生徒数に占める面談数の割合にした（成人年齢の引き下げによる影響）。 　今年度の基準で比較すれば、昨年度は174人（419人中）で、41.5%となり、今年度204人（445人中）の45.8%は、人数、割合とも増加している。 今後とも面談数の増加のために環境作りに努力したい。
	②教職員が生徒理解を深めるため、6月に面談月間を設ける。また、後期にも適宜面談を行い、生徒の自己実現の支援に努める。 時間確保のため平日に実施するが、スクーリング日の始業前後などにも実施する。連絡のない生徒にも呼びかけ、より多くの生徒と面談する。	総務課 学年会 担　任	【努力指標】 教職員が活躍生と年度内に1回以上面談している。	活躍生と1回以上面談できた割合が A　70%以上 B　60%以上 C　50%以上 D　50%未満	年度末に判定 C以下の場合は手だてを検討する。 R4前期　47.0% R3前期　50.1% R2前期　44.2%	昨年度に比較して、学年・ホーム間で面談数に増減の幅がみられ、結果的に減少となった。 　後期に向けて、各学年団は情報を共有しながら生徒に対して面談を促すよう努力したい。
4　各種業務の平準化と効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを実現する。	①教職員が各課内での業務の平準化と協力しあえる職場環境を整え、職員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	教　頭 各　課 各学年	【努力指標】 県が目標とする年次休暇12日を教職員全員が取得できている。	年次休暇を12日以上取得したという教員が A　95%以上 B　90%以上 C　80%以上 D　80%未満	年度末に判定 C以下の場合は手だてを検討する。	後期も事業の効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて取り組みたい。

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）および今後の扱い（改善策等）
5　卒業後の生き方を考えさせ、生徒の能力・適性を踏まえた進路指導やキャリア教育を行い、就業率や進学率を高める。	①進路説明会およびロングホームルームでの就職、進学の流れの説明を通して、生徒が自分の適性・能力を活かし、卒業後の進路決定ができるよう指導する。	進路課 学年団 担任	【満足度指標】 就職、進学までに必要なことや手順を理解し、卒業後の進路の方向性を持つことができるようにする。	アンケートでLHでの進路説明が自分の進路を考えるのに役立ったと答えた生徒が A　90%以上 B　80%以上 C　70%以上 D　70%未満	年度末に判定 6月進路説明会実施 参加者　119名	進路だよりをどれくらい読んでいるか、進路決定までの順序をどれくらい理解しているか、今後LHを通じて指導し、年度末にアンケートを実施する予定である。 6月に実施した進路説明会は昨年度と比較して参加者は減少したが、1人を除き肯定的な評価であった。
	②生徒が自分の適性を知り、将来就きたい仕事について理解を深められるように、教職員が就労の意義、職業、資格について指導する。学年団、進路、教務、総務課が資料や情報を生徒に与え、総合的な探究の時間などを活用して進路指導を行う。	総務課 進路課 教務課 卒業学年	【成果指標】 生徒は卒業時に進路が決定している。	卒業時に進路が決定している生徒が A　80%以上 B　70%以上 C　60%以上 D　60%未満	卒業式後に判定する。	就職で＜学校紹介希望＞としながら担任や進路課への相談がない生徒がいるが、相談に来た生徒については順次内定が取れている。 進学では総合型選抜や学校推薦型選抜の希望者が例年より少ないように感じる。進路希望者への声かけを続けていく。